

## 第 3 回大田区景観まちづくり賞審査結果について

### 1. 実施概要

#### 1) 趣旨

景観まちづくりへの関心を高め、大田区らしい魅力あふれる景観形成をさらに推進するために、区内の良好な景観形成に寄与する街並みや建物、活動などを募集し、表彰する「大田区景観まちづくり賞」を平成 27 年度に創設しました。

#### 2) 募集部門と推薦のポイント

募集部門	街並み景観部門	景観づくり活動部門
募集内容	地域の個性が感じられる、あるいは魅力的な景観形成に貢献しているもの ・建築物等 ・街並み（公共空間を含む） ・みどり（樹林地、生垣等） 等	区民・団体・事業者等が取り組む、魅力的な景観形成に貢献している活動
表彰対象者	景観形成に貢献した建築物等にかかわる所有者（個人、事業者）・設計者・施工者等	活動の主体である個人・団体・事業者等
推薦のポイント ※	①大田区らしい魅力の創出に貢献している ②周辺環境との調和や配慮がみられる ③継続的な維持管理によって、良い景観が育まれている ④創意工夫や優れた取り組みにより、独自の景観が創出されている ⑤良好な景観形成などにより、地域の人々に深く親しまれている	①景観づくり活動の継続により、良好な景観が形成されている ②地域の自然、歴史、生活文化などを活かした大田区らしい活動となっている ③景観づくり活動が地域力、にぎわいや魅力の向上につながっている ④今後の活動が継続的な景観づくりにつながっていくことが期待できる

※応募内容がどのポイントに該当するか評価する際に活用。

### 3) 募集・審査過程について

実施時期	内容
令和元年5月15日(水)～8月30日(金)	募集
令和元年9月20日(金)～10月4日(金)	書面審査
令和元年10月11日(金)	第1次審査 ・街並み景観部門現地視察24件を選定 ・景観づくり活動部門書面作成依頼3件を選定
令和元年11月15日(金)、22日(金)	街並み景観部門・景観づくり活動部門(一部)現地視察
令和元年12月13日(金)	第2次審査 ・街並み景観部門受賞候補9件を選定 ・景観づくり活動部門受賞候補2件を選定

### 4) 募集方法

・以下方法にて広報し、web応募(電子申請)、郵送、直接持参の方法により募集した。

#### ○広報(⑧、⑨は今回初めて実施)

- ①本庁舎及び出張所等における募集チラシ配布(約1,500部)
- ②建築関係団体への募集チラシ配布(約40団体)
- ③景観に寄与する活動をしている団体への募集チラシ配布(約10団体)
- ④大田区ホームページ、区報、ツイッターによる周知
- ⑤景観行政団体(他自治体)への周知
- ⑥都市計画学会や日本建築学会などのメーリングリストやwebによる周知
- ⑦景観アドバイザーが推薦する物件への周知
- ⑧区設掲示板への掲示(区内にある掲示板の3割、約300か所)
- ⑨区立小中学校でのポスター掲示(小学校59校、中学校28校)

5) 選考委員一覧（敬称略、◎は部会長、50音順）

氏名	所属	備考
大澤 昭彦◎	高崎経済大学准教授 大田区景観審議会委員	・第2回でも委員として参加
落合 正行	日本大学理工学部助教	・専門委員として参加 ・第2回受賞者
杉田 早苗	東京工業大学環境・社会理工学院助教 大田区景観審議会委員	・第1・2回委員として参加
杉山 朗子	日本カラーデザイン研究所 シニアコンサルタント 大田区景観審議会委員	・第1・2回委員として参加
二井 昭佳	国土舘大学教授 大田区景観審議会委員	
加藤 芳夫	大田区景観審議会区民委員	・第1・2回委員として参加
喜多河 康二	大田区景観審議会区民委員	・第2回委員として参加
鈴木 邦成	大田区景観審議会区民委員	・第2回委員として参加

6) 今回の応募状況

・以下のとおり応募があった。

部門		街並み景観部門	景観づくり活動部門	
応募 状況	総数	45 通 (43 物件※1)	6 通 (6 活動団体)	
	自他薦	自薦	8 通 (8 物件)	
		他薦	37 通 (35 物件※1)	3 通 (3 活動団体)
	種別 ※2	①建築物	30 通 (28 物件※1)	
		②街並み	6 通 (6 物件)	
		③公園・緑	7 通 (7 物件)	
		④その他	2 通 (2 物件)	

※1 応募があった物件数。一部重複があったため、応募総数より少なくなっている。

※2 区が任意で種別を整理した。

## 2. 審査結果（名称、受賞者、所在地は現在調整中）

・受賞候補は以下のとおりであった。受賞候補の位置図を次ページに示す。

### 1) 街並み景観部門

No	名称（仮）	受賞者	所在地	備考
1	KOCA	株式会社@カマタ 京浜急行電鉄株式会社	大森西 6-17-17	自薦
2	中馬込生産緑地群	所有者	中馬込 3丁目	2ヶ所の 共同受賞
3	田園調布駅舎 東急スクエアガーデンサイト	東急電鉄株式会社	田園調布 3-25-8 田園調布 2-62-3	
4	伊藤家住宅主屋	所有者	非公開	
5	東京流通センター物流B棟	株式会社東京流通センター	平和島 6-1-1	
6	赤松を活かした戸建住宅	所有者 設計者	非公開	自薦 設計者は 故人
7	六郷用水復元水路	（公共施設のため、 受賞者無し）	田園調布本町	
8	大田区立勝海舟記念館 及びその周辺道路	（公共施設のため、 受賞者無し）	南千束 2-3-1 及びその周辺	

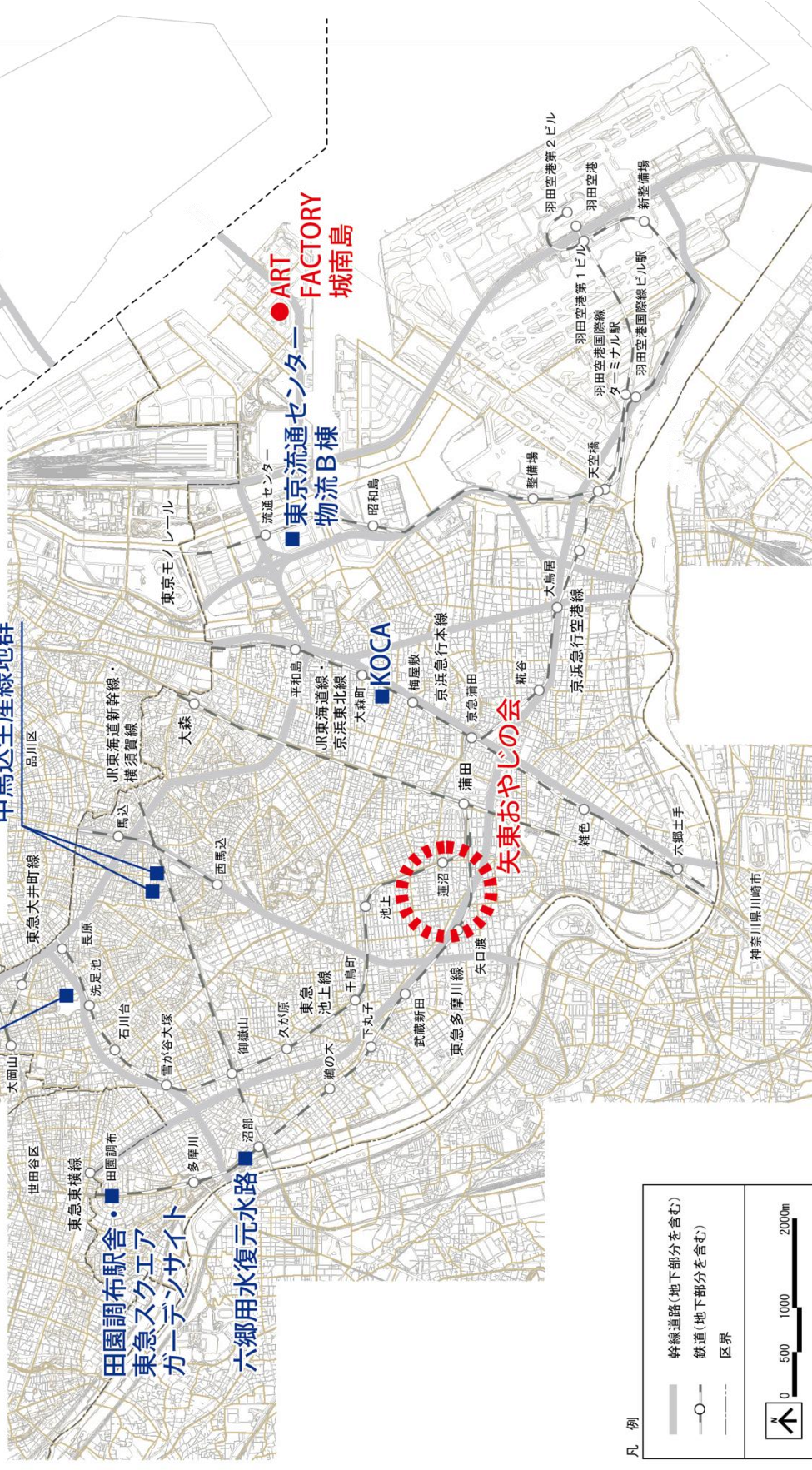
### 2) 景観づくり活動部門

No	受賞（仮）	受賞者	活動エリア	備考
1	ART FACTORY 城南島	株式会社東横イン 株式会社東横イン元麻布ギ ャラリー	城南島 2-4-10 （ART FACTORY 城南島）	
2	矢東おやじの会	矢東おやじの会	矢口東小学校外 周及び小林公 園・三丁目公 園・一丁目公園	自薦

第3回大田区景観まちづくり賞 受賞候補 位置図 (概ねの位置を示しています)

**大田区立勝海舟記念館  
及びその周辺道路**

**中馬込生産緑地群**



※個人住宅は現時点では表示していません。

## 2) 受賞候補の概要と表彰理由

- ・各受賞候補の概要と表彰理由は以下のとおりである。

### 街並み景観部門審査結果 (1/8)

名称	KOCA
受賞者	株式会社@カマタ、京浜急行電鉄株式会社
所在地	大森西 6-17-17
概要	KOCA は、平成 31 年 (2019 年) 4 月にオープンした、京浜急行本線大森町駅と梅屋敷駅の間の高架下約 300m の範囲につくられた梅森プラットフォームに位置する、シェアオフィス棟、工房棟、スタジオ 2 棟の計 4 棟の建物とまちに開かれたオープンスペースからなるインキュベーションスペース (創業支援施設) である。高架下の新たな景観を生み出している。
表彰理由	<p>現在、都内各地で進められている連続立体交差事業 (鉄道の高架化) だが、これによって生じる高架下空間は、周囲に閑散としたイメージを与えることから、その活用は景観まちづくりの重要なテーマである。単に高架下空間を有効利用しただけの、周辺地域と関係が薄い事例をよく目にするが、この「KOCA」は大田区ならではの「ものづくり」に焦点を当て、町工場の技術力とクリエイターの発想力が交差する新たな場を高架下に創出させた。</p> <p>しかも、高さのある高架下空間に建物を目一杯に詰め込むのではなく、あえてボリュームを小さく低く抑えることで、周辺住宅地との調和を図りつつ、高架と建物間にスペースをつくり、広場や路地にテーブルやベンチ、植栽などが配され、創作活動がまちに滲み出る工夫もみられた。</p> <p>また、この施設を運営する「@カマタ」は、かつてから蒲田で活動する地元の建築家集団であり、建築物だけでなく活動としても、今後の発展性に大きく期待できることから評価した。区内の他の高架下も、このような地域的活用が波及することを願う。</p> <p style="text-align: right;">(委員：落合 正行)</p>

街並み景観部門審査結果 (2/8)

名称	中馬込生産緑地群
受賞者	所有者
所在地	中馬込3丁目
概要	<p>中馬込3丁目にある生産緑地群である。</p> <p>1ヶ所は馬込の生産者により結成された園芸研究会が昭和28年(1953年)に開園した「馬込シクラメン園」である。シクラメンの生産・販売を行っている。</p> <p>もう1ヶ所もシクラメン園同様、道路からはハウスが見え、道路を挟んで反対側の敷地において、パンジーなどの花の生産を行っており、販売も行っている。</p> <p>また、いずれも、道路沿いに緑豊かな生垣があり、街並み景観に潤いを与えている。</p>
表彰理由	<p>本件は近接して残る2カ所の花卉(かき)栽培地であり、大田区に残る数少ない都市農地である。長く続く緑の生垣の向こうには栽培ハウスが並び、ここではパンジーやシクラメンなど彩り豊かな花卉が栽培されている。斜面地に広がる栽培ハウスと斜面林は、東海道新幹線の車窓からも望むことができる。</p> <p>馬込地区では昭和28年(1953年)からシクラメンの栽培が始まり、最盛期には13軒の農家がシクラメンを生産していたという。現在では生産農家は減少したものの、「シクラメンゆかりの里」としてシクラメンやその他の花卉が生産されている。</p> <p>地域に長く親しまれた花卉栽培の風景は、馬込地区の歴史を伝える大切な存在である。また、大田区に残る貴重な都市農地の風景であることに加え、周囲の住宅街と調和し地区一帯の景観の質を向上させている点などが高く評価された。</p> <p>都市づくりにおいて都市と農はこれからの大きなテーマである。都市の中に織り交ぜられた都市農地のある風景の好事例として、今後も長きに渡り継承されることを期待するものである。</p> <p style="text-align: right;">(委員：杉田 早苗)</p>

街並み景観部門審査結果 (3/8)

名称	田園調布駅舎・東急スクエアガーデンサイト
受賞者	東急電鉄株式会社
所在地	田園調布 3-25-8、田園調布 2-62-3
概要	<p>いずれも東急東横線・目黒線の田園調布駅地下化に伴い、復元・計画されたもので、一体的な景観を創出している。</p> <p>田園調布駅舎は、大正12年（1923年）に目黒蒲田電鉄（東急電鉄の前身）が建築した田園調布駅舎を復元したものである。マンサード・ルーフという特徴的な屋根形状を有し、田園調布の特徴である放射道路の起点に位置し、田園調布のシンボルとなっている。</p> <p>東急スクエアガーデンサイトは、駅地下化に伴う上部利用を契機とし開発されたショッピングセンターである。地域の環境に配慮して、緑の中にヒューマンスケールの建物を分棟形式で配置し、調和のとれたデザインとなるよう、当初の計画時から住民とともに計画された。</p>
表彰理由	<p>田園調布は大田区を代表する住宅地として知られており、大正時代に欧米のまちを参考とした放射線状の道路網並びにロータリーの中心に田園調布駅舎があり、地域と調和したユニークな景観・環境が保たれ人々に親しまれている存在である。</p> <p>田園調布駅の地下化により上部の駅前再開発として、地域住民の要望を踏まえた景観と環境を調和させた駅舎の復元と駅前のショッピングセンター（東急スクエアガーデンサイト）は、大田区の文化・景観的財産として評価する。</p> <p>大田区内の再開発に際し、地域住民の民意を尊重した文化の継承と景観・環境と調和に配慮したまちづくりの一つの指針（手本）となることを期待する。</p> <p style="text-align: right;">（委員：喜多河 康二）</p>



街並み景観部門審査結果 (4/8)

名称	伊藤家住宅主屋
受賞者	所有者
所在地	(非公開)
概要	<p>伊藤家住宅主屋は、チェコ出身のアントニン・レーモンド設計の1963年(昭和38年)築の木造2階鉄筋コンクリート造地下1階建の住宅である。2016年(平成28年)に国の登録有形文化財に登録されるとともに、大田区景観計画に基づく景観資源【文化財等】にも指定されている。</p> <p>斜面地にある敷地形状にあわせた台形平面を持ち、鉄筋コンクリート造の車庫等の上部に木造2階建の家屋を載せている。また、2階バルコニーと一階の大開口が印象的で、内装の化粧ベニヤ板の使用、円柱を独立して建てる手法などにもレーモンド事務所の設計の特徴が見られる。</p>
表彰理由	<p>大田区の景観の特徴の一つが斜面地に広がる住宅地である。その坂のまちで、主屋は南向きの斜面を活かしてのびのびとした眺めを満喫するように配置されていて、地形の魅力を伝えてくれている。街並みに貢献する緑は手入れも行き届いており、住む人の品格が伝わる住宅であり、結果として街並みのイメージを向上している点が評価された。戦前から日本で活躍したアントニン・レーモンドは日本で木造住宅をつくる際に、日本の風土・気候に対応して開放性を持たせ、足場丸太と鉄板はぜ葺き、立て板張り、深い軒といった“レーモンド・スタイル”を大切にしていたというが、伊藤家住宅も道路側からそれらの特徴がみとれる。戦前は洋風の横方向の下見張りが中心だったが、戦後さらに日本人の方位観や自然観などの研究を進め縦張りにしたという。やや濃いめの茶に塗られた木の部分とコンクリート打ち放しの煙突のコントラスト、大谷石など、色の扱いも含めて日本家屋の素材の使い方などを深く考察した結果とのことだが、日本、そして大田区の地形や地域性を考えた先駆的な事例であり、現代でも坂のまちの景観を創り上げる好例と言えるであろう。</p> <p style="text-align: right;">(委員：杉山 朗子)</p>

街並み景観部門審査結果 (5/8)

名称	東京流通センター物流B棟
受賞者	株式会社東京流通センター
所在地	平和島 6-1-1
概要	<p>東京流通センターは、4棟の物流ビルからなる大規模な物流センターで、大田区の代表的な物流施設であると言える。今回受賞となったのは、4棟のうちのひとつである物流ビルB棟である。物流ビルB棟は2017年（平成29年）6月に竣工した最新鋭の物流施設であり、大田区景観計画に基づき景観形成が図られた施設でもある。</p>
表彰理由	<p>対象物件を中心に構築される景観は、流通団地倉庫群とモノレールがつくる大田区らしい景観の一つと考えられる。当該地区は機能性だけではなく和らげるデザインにも配慮し、地域開発が促進されることを望ましいが、大田区景観計画にも書かれている車窓からの眺めに配慮したものになっている。大田区らしさのある複数棟で構成される巨大な物流施設であるが壁面や周辺の空間を樹木などで彩をつけようとしている。</p> <p>対象物件は倉庫街を代表する施設であり、近年相次いで誕生している高いレベルの物流オペレーションに適した、いわゆるマルチテナント型自走式物流施設の原点ともいえる施設で、建て替えにより昭和の雰囲気を残しつつも、歩車分離構造や免震構造などの安全・安心を追求した設計により新しい建築物に生まれ変わっている。</p> <p>ルーバーをうまく活用し、建物のスケールをうまく落としている点、沿道の桜を守っている点、控えめな敷地境界の柵にしている点など、街並みとの関係を保つ設えも評価できる。今後は倉庫街の中心で拠点施設として位置づけ周辺景観アップにつながるように展開してほしい。</p> <p style="text-align: right;">(委員：鈴木 邦成)</p>

街並み景観部門審査結果 (6/8)

名称	赤松を活かした戸建住宅
受賞者	所有者
所在地	(非公開)
概要	樹齢 100 年を迎える赤松が特徴的な住宅である。住宅の設計にあたって、この赤松を保全していくため、赤松の配置を踏まえた設計がなされた。赤松は、所有者の維持管理もあり、現在も住宅地の貴重な緑となっていると言える。
表彰理由	<p>久が原は田園調布や山王などと並び、区内でも有数の邸宅地であり、古くから培われてきた風景そのものが、今ではまちの魅力となっている。その魅力要素の一つとして、都心では数少ない豊かな緑が挙げられる。しかし、住宅地の緑はそのひとつひとつが個人の所有物であるため、まとまった保全が難しく、住民それぞれの意思に委ねられている。</p> <p>そのなか、この「赤松を活かした戸建住宅」は、100年という長い間、庭先にあった赤松が保護され、継承され続けてきた。一般に、建築物は個人の意思とは関係なく、文化の衰退と技術の発展にともない、その様相は画一化されてしまうが、この赤松のように所有者個人の意思一つで残すことができれば、住宅街に個性を生み出すことができる。現に過去の写真からも、建物が建て替わっても赤松だけは残り続けていることから、保全しようという気持ちを感じられ、その所有者の強い意思こそが今回の評価に値する。これから先も、これまで以上にこの赤松を愛し、このまちの景観づくりに関わり続けてほしい。</p> <p style="text-align: right;">(委員：落合 正行)</p>

街並み景観部門審査結果 (7/8)

名称	六郷用水復元水路
受賞者	(公共施設のため、受賞者無し)
所在地	田園調布本町
概要	<p>六郷用水は、徳川家康の江戸開府に伴い新田開発の要請に応えるべく、小泉次大夫が14年の歳月をかけ開削したもので、慶長16年(1611年)に竣工した。大田区の農業の発展に大きく寄与したが、その後宅地化、工場の進出に伴い灌漑用水としての使命を終え、そのほとんどが現在、暗渠化されている。</p> <p>今回受賞となった六郷用水復元水路は、その六郷用水の一部区間を昭和57年度(1982年度)に復元したものであり、大田区景観計画では当該区間を含む「旧六郷用水散策路」が景観資源【道路】にも位置づけられている。散策路沿いには、湧水が流れる水路があり、当時「ジャバラ」と呼ばれた揚水用の踏み車が再現されているとともに、ベンチが置かれた休憩スペースもある。また、当該区間は桜並木にもなっており、春には美しい桜を見ることができるなど、区民の憩いのスペースになっていると言える。</p>
表彰理由	<p>六郷用水は、徳川家康の命を受け慶長16年(1611年)に完成した歴史的価値の高い農業用水である。多摩川からの取水口は10km以上も上流の和泉村(現:狛江市)付近にあり、国分寺崖線に沿って矢口村(現:大田区)まで導水し、そこから大きく二手に分かれ、網の目に巡らされた水路によって灌漑する仕組みであった。これにより、荒地だった土地は、豊かな水田地帯へと変わり、最大時には水田が約1000町歩(約1000ha)にも及んだという。</p> <p>今回の受賞対象である「六郷用水復元水路」は、このうち、大田区田園調布本町から西嶺町に至る約1.2kmの区間で、昭和63年(1988年)頃に大田区によって遊歩道と一体となった親水水路として復元整備されたものである。昭和63年(1988年)には、国土交通省の「手づくり郷土(ふるさと)賞」を受賞している。</p> <p>現地視察を含む審査では、国分寺崖線の豊かな緑と桜並木に囲まれ、石積の水路を眺めつつ歩ける水辺の遊歩道が、地域の大切な生活の道として定着していると同時に、品格のある住宅地の風景を演出していることが高く評価された。整備後30年以上が経ち、改修が必要な場合が出てくる時期ではあるが、これからも魅力的な風景が維持されることを願っている。</p> <p style="text-align: right;">(委員: 二井 昭佳)</p>

街並み景観部門審査結果 (8/8)

名称	大田区立勝海舟記念館及びその周辺道路
受賞者	(公共施設のため、受賞者無し)
所在地	南千束 2-3-1 及びその周辺
概要	<p>大田区立勝海舟記念館は、海舟の功績や大田区との縁を紹介するとともに、海舟の想いと地域の歴史を伝える施設として、令和元年（2019年）9月に開館した。</p> <p>当該施設は、清明文庫を活用したもので、清明文庫は、平成12年（2000年）に国の登録有形文化財に登録され、平成24年（2012年）に大田区の所有となった。外観正面中央部のネオゴシックスタイルの柱型4本が特徴的で、内部にはアールデコ調の造作が施されるなど、西洋の建築技法も取り入れられたモダンな建造物である。</p> <p>勝海舟記念館の整備にあたっては、その外観に配慮しつつ、増築及び改修工事が行われた。また、記念館の整備に合わせて、中原街道から記念館に至る道路についても景観整備が行われた。</p>
表彰理由	<p>大田区立勝海舟記念館は、国の登録有形文化財である旧清明文庫を活用し、令和元年（2019年）に開館した全国初の勝海舟の記念館である。旧清明文庫は、別名を鳳凰閣といい、洗足池にあった海舟の別宅「洗足軒」や墓所の保存や、海舟に関する図書の収集・閲覧、講義などの開催を目的に、財団法人清明会が昭和8年（1933年）に開館したものである。</p> <p>現地視察を含む審査では、昭和初期のネオゴシック様式を基調とした歴史的建造物を丁寧に保存・活用している点に加え、記念館の外構と隣接する区道の舗装を合わせたり、記念館側の歩道端部に植栽スペースを設けるなど、記念館と道が一体的な景観を生み出し、風致地区・洗足池の街並みの魅力に貢献している点が高く評価された。こうした工夫には、今回で言えば建物関連部局、道路関連部局といった関係部局の連携が必要ではあるが、費用対効果の大きい工夫であり、今後さまざまな公共空間で展開されることを期待したい。なお審査では、東側の区道側の新設建築のファサードに対し、もう少し街並みに配慮したデザインが望まれたという意見があったことを申し添えておきたい。</p> <p style="text-align: right;">(委員：二井 昭佳)</p>

## 景観づくり活動部門審査結果 (1/2)

名称	ART FACTORY 城南島
受賞者 (活動 団体)	株式会社東横イン 株式会社東横イン元麻布ギャラリー
活動 場所	城南島 2-4-10 (ART FACTORY 城南島)
活動 概要	ART FACTORY 城南島は、(株) 東横インが社会貢献活動の一環として提供する芸術・文化振興のために、所有している倉庫建物を再利用した施設である。館内にアーティストが作品制作を行うスタジオ (アトリエ) やアート作品の鑑賞スペースがあり芸術・文化振興に資する活動が行われている。また、外観の改修により、工場などが立地する城南島において新たな景観を生み出している。
表彰 理由	<p>臨海部の城南島に立地する本件は、スーパーエコタウンをはじめとする工業専用地域にあり、賑わい創出や多数の集客力に期待しづらいエリアである。その地区の中心部に倉庫建物のリノベーション物件が新たな魅力や景観を創出している。外観は赤をアクセントとした色彩の建物で周辺にも配慮した景観づくりを提案している。館内はアーティストが作品制作を行うスタジオ (アトリエ) やアート作品の鑑賞スペースを提供している。</p> <p>このように、味気ない工場地帯に倉庫を再利用した芸術・文化施設が周辺景観に明るさを醸しだしている。また、企業の社会貢献活動の一環で芸術・文化振興のための常設展や定期的な企画展やイベント、体験教室などを開催し入場無料で見学・公開している。特に大田区と連携した「おおたオープンファクトリー」の拠点のひとつで、城南島工場見学バスツアーや他団体との連携企画なども行っている。</p> <p>今回の受賞がきっかけで、多くの皆さんに関心を持っていただき、継続的な活動に繋がれば、地区内の文化・芸術・アートなどの情報発信拠点として周辺の景観づくりに寄与することが期待できる。</p> <p style="text-align: right;">(委員：加藤 芳夫)</p>

景観づくり活動部門審査結果 (2/2)

名称	矢東おやじの会
受賞者 (活動 団体)	矢東おやじの会
活動 場所	矢口東小学校外周及び小林公園・三丁目公園・一丁目公園
活動 概要	<p>矢東おやじの会は、小学校のおやじの会が中心となった組織で、大人だけでなく子どもも参加して、学校の外周及び近隣公園、通学路の清掃活動など環境美化活動を主に行っている。拾ったごみを使ってキャラクター作品をつくる活動も行うなど、楽しさの要素も加えながら活動している。環境美化活動を通じて、環境美化や地元への意識を高めるとともに、大人と子どものコミュニケーションを積極的に図っている。</p>
表彰 理由	<p>矢口東小学校のお父さん達を中心となって作られた矢東おやじの会は、年に3～4回、子供たちと一緒に学校の周辺や通学路、近隣公園を清掃することを通じて、子供たちに自分たちの地域を自分たちで綺麗にしていくことを意識づけする活動を行っている。参加した子供たちからは、「道路にまたタバコが落ちているよ。」など地域環境を気にかける発言が聞かれるようになり、また一緒に参加する大人も、地域への美化意識だけでなく、自分たちの地域の状況や子どもの遊び場の理解を深めているという。</p> <p>矢東おやじの会の活動は、直接的に景観形成を行う活動ではないが、景観づくり活動の前提となる地域への関心や愛着づくりに大きく貢献するものであり、また子供たちがこうした活動に参加している点が評価された。</p> <p>活動期間は3年とまだ短いことから、これからの活動の継続を期待するとともに、子供たちの主体性を活かした活動内容の広がり、そして地域の風景として現れるような活動へと展開することを大いに期待する。</p> <p style="text-align: right;">(委員：杉田 早苗)</p>